

禿頭に降参してゐるのは、ツマリ地主の禿頭が居るからだ。地面を持つてる丈なら好い、然し毎年々々家賃が高くなるのは、禿頭の方なのか都會の方なのか。東京に電車が出来る、大通りから近郊の百姓村まで地價が騰貴する。電車は禿頭が作ったんぢやあるめえ。大阪に工場が出来、外國貿易が繁昌する、忽ち土地が上る家賃が上る、これは大阪市の發達、日本全體の發達なのだ。その爲めに禿頭一人ふところを肥やすと云ふ理風はない。物の例へがかうだ、風が吹いて来て誰かの帽子が飛んで、ボンヤリ握り毬丸をして立つてゐた禿頭の上にボンと乗つたつたとする、禿頭奴これは有難い、立ん

棒をしてゐたら帽子が天下だった、これは拙者のものだ。孫子の代まで所有權があると扱したら道理と思ふか。帽子の主は東京大阪の市民だ、市民がウツカリしてゐる間に帽子が飛んだ、禿頭はこれは拙者の帽子だ、その理由は拙者が側に握り毬丸をして居たからだと主張する。ミ、ズぢやあるめえし、土一鉢喰つて金一鉢たれることが出来るか。デモ發達しない前から所有して居た權利、發達するだろうと見込んで買込んで居た權利によつて、禿頭に軍配を上げようと云ふのか、立つて居ようと寝て居ようと、帽子は持主のものであれば持主に返さねばならぬぢやないか、帽子が飛ぶせつて持主より先に